

令和2年度 事業報告書

社会福祉法人杉の子会

1 施設整備事業

- 太陽の子保育園多目的ホールのドアについて引き戸にし、網戸を設置しました
(兵庫県の再開支援金を利用) 244,000 円
- けま太陽の子保育園 調理室 冷蔵庫入替に伴う各種配置換えなど行いました。
1,102,000 円

2 寄附金

杉の子友の会より	500,000 円
太陽の子友の会より	500,000 円
けま友の会より	500,000 円
さんぽ友の会より	500,000 円
平和薬品様より	100,000 円

3 会議

理事会	3 回 (内、決議の省略 1 回)
評議員会	1 回 (内、決議の省略 1 回)
監事会	1 回

4 その他

機関誌「ふたば」を6月、12月 年2回発行しました。

2020年度 杉の子保育園事業報告

園児在籍数

年令/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0才児	5	5	5	5	6	6	6	7	7	7	8	9
1才児	12	12	12	12	12	12	13	13	13	13	13	13
2才児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
3才児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
4才児	15	15	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16
5才児	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
合計	81	81	81	81	82	82	83	84	84	84	85	86

1. 職員体制

【正規職員】 施設長1名 主任1名 副主任2名

保育士 13名 (主任・副主任含む)
栄養士 1名 調理師1名

【準正規】 保育士 1名

【パート】 保育士/ 6h: 2名 5h: 1名 4h: 2名 3. 5h: 1名 保育7h: 1名
調理補助/ 4h: 1名

2. 開園時間

午前 7:00～午後19:30 (保育標準時間: 7:00～18:00 保育短時間: 8:30～16:30)

土曜日 7:00～午後18:00

休日保育: 午前8:30～17:30

3. 事業計画重要課題

☆ 新型コロナウイルス感染拡大のための緊急事態宣言下の中経験したことがない保育をどのように進めていくのか細かく打ち合わせをしながらおこなってきました。保育の中で子どもたちの安全だけでなく保護者、職員の体調面等の把握と感染状況の把握、近隣の園との情報収集、共有に努めました。

☆ 「危機管理意識と災害」

コロナ禍の状況でも災害に備えていくために避難訓練、防犯訓練は欠かさず行ってきました。

合同の訓練はできませんでしたが小田地区の各保育園、幼稚園、小学校とも連絡を取り

「もしもの時」に備えていきました。

【保育実践】

- ☆ 年長交流 幼保小連携
今年は年長交流はできませんでしたが、就学先の小学校教諭に来園してもらい学校への興味が持てるようになってきました。
- ☆ 密を避けての保育を行ってきたので各クラスの様子を共有する機会が少なかったため日々の昼礼にクラスの保育の様子を出し合って状況の把握に努めていきました。
- ☆ リモートでの研修がほとんどだったので正規職員だけでなくパートの職員も自宅で研修を受ける事ができたのでその後の研修の振り返りや会議で共通の認識を持ちながら話を深めていくことができました。
- ☆ コロナ禍の状況で「こども権利」について考え合う事が多く持てました。相手を否定したりする子どもたちの言葉には保育士が気付かず普段の生活で否定につながる言葉を発していないだろうかや、子どもたちだけでなく保護者にも気づいてもらえるように関連する絵本を通して話をする機会を設けてきました。
- ☆ 世界にはいろんな国や人がいること、宗教の違い、言葉の違いなどを意識しながら絵本選びや遊びを通して、子どもたちと考える機会をもうけてきました。

【親支援・子育て支援】

- ☆ 年長クラスは個人懇談を例年に続き行いました。就学に向けて言葉や文字への興味、集団への姿勢など保護者との共通認識を一致させていきました。
- ☆ 様々な家族の形が増え、同時に支援が必要な家庭も増えました。地域の保健師、児童相談員と連携しながら見守りの強化と支援につなげていきました。

4. 健康 保健

毎月	身体測定
4月	緊急事態宣言
5月	緊急事態宣言
6月	耳鼻科検診、眼科健診、転倒による唇の裂傷
7月	小児科健診 歯科検診
8月	
9月	
10月	遊具での衝突により歯の損傷
11月	小児科健診 転倒による裂傷 衝突による歯と歯茎の損傷
12月	新型コロナウイルス感染症陽性者の発生
1月	溶連菌感染症
2月	亜脱臼
3月	

12月後半、新型コロナウイルス感染症の陽性者の発生
職員、児童含む6名の感染者の発生となりクラスター認定を受ける。
6日の休園を伴い、全職員、全園児PCR検査を行い
保健所の指導の下、改めて感染予防に努めていきました。

手指の消毒、うがいなど普段から行ってきたので
例年では流行するインフルエンザやその他の感染症は発生後も蔓延することはありませんでした。

5、衛生・管理

7月 ゴキブリ駆除(本園、分園、分室)

6、特別保育事業

一時保育延べ人数(休日保育を含む)

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	2	5	0	2	5	3	3	1	2	7	30
1, 2	2	0	4	4	0	3	9	14	7	5	8	33	89
3, 4, 5	1	2	3	9	10	9	13	11	2	3	2	3	68
合計	3	2	9	18	10	14	27	28	12	8	12	43	187

コロナ禍の中で休日就労の方が減少し利用者が激減しました。平日は乳児の利用が増えコロナ禍の中で保護者の精神的不安での緊急受け入れのケースや、無認可保育所利用で急に休園になったりと不安定な状況で就労していた母子の預かりなどがありました。いずれも保健師との連携の中、受け入れをしていきました。

延長保育延べ人数

年令	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	5	4	3	13	20	24	26	28	24	11	23	35	216
1, 2	46	143	102	100	90	92	130	97	72	68	98	122	1,160
3, 4, 5	97	77	157	233	167	122	171	149	111	138	253	173	1,848
合計	148	224	172	346	277	238	327	274	207	217	374	330	3,224

コロナ禍ではあるが特に就労の時間が短くなったりするケースはあまり見られず例年通りの延長利用者数ではあった。後半期は0才児の利用が増え、密をさけながらの保育をするのに試行錯誤しました。

7. 障害児保育

発達や子育てに不安を抱えている保護者の声を吸い上げて、必要であれば個人懇談をへて困り感を聞き取り発達相談へとつなげてきました。

また、1才半検診、3才児検診で地域保健と連携し、情報の共有を行ってきました。

就学前では小学校と連携し、保護者の対応から子どもの受け止め方の共有もはかってきました。

8. 地域の子育て支援事業

あそぼう会

毎週水曜日10:30~12:00までの開催にし、夏はプール、水遊び、

腹話術や屋外でのイベントを取り入れ コロナ禍でも楽しめる行事をおこなってきました。

9. 実習生 ボランティアの受け入れ

7月ー 関西国際大学 2年生(4名)

8月ー 関西保育専門学校 2年生(2名)

9月ー 京都女子大学 2年(1名)3年(1名)

1月ー 頌栄短期大学 2年生(2名)

10. 避難訓練 健康教育 食育

自主避難訓練

4月	火災	10月	火災/消防立ち合い
5月	火災/不審者対応	11月	地震/不審者
6月	風水害	12月	津波
7月	地震	1月	地震/不審者
8月	火災	2月	火災
9月	風水害	3月	火災/消防立ち合い

避難訓練 ① 消防署立ち合い訓練では、避難、消火活動、啓蒙学習と総合訓練を行い、消火器の使い方など学びました。

② 不審者対応では警察の方に来てもらい実際に不審者が来たらどのような対応が望ましいかなど職員を中心に訓練を行いました。

③ 防災食の食べる機会を設けて水を使わない片付け方法などを子どもたちと共に経験する機会を設けていきました。

健康教育 ① 新型コロナ感染症対策で手洗い、消毒、検温を徹底し、感染予防に努めていけるよう常に伝えていきました。

② 健康教育では外部の方に来てもらい教えてもらうことはできなかった為保育の中で紙芝居や絵本を通して学ぶ機会を多くした。

食育

① 前半期は新型コロナ感染症の予防の為クッキングを行うことができませんでしたが後半期になり玉ねぎの皮むきや野菜の下処理を行ってきました。

月一回、誕生会と同じように保育士と調理室とが食にまつわる取り組みを立案し子どもたちに伝えていく取り組みをしました。併せて保護者にも写真などで様子を伝えたりして啓もう活動に努めました。

11. 会議

各会議の運営責任者をはっきりとさせ 定例化し会議の中で意見交換を活発におこなえるようにしてきました。

リーダー会・・・各クラスリーダー出席 主に月案・週案討議/運営責任者(主任)

クラス会・・・クラス担当職員出席、子どもの見方 保育内容検討 / 運営責任者(クラスリーダー)

フロアー会議・・・連携動きの確認 / 運営責任者(副主任)

職員会議・・・全職員出席 保育方針等の討議/運営責任者(園長)

園長、主任、副主任会議・・・日常の細かな取り決めを役割の確認、園の方針の検討

12. 研修

外部研修(全リモート)

保育問題研究集会	3名
合同保育研究集会	13名
法人保育園会研修	14名
尼崎人権研修	14名
いくしあでのとりくみ	5名

内部研修

優生思想について	5名
防災を考える	4名
食の安全	5名
IPPO創作研修	4名
巡回発達相談と保育	4名

キャリアアップ研修→中止に受講予定者は受講できず。

2020 (R2) 年度太陽の子保育園事業報告

1、園児在籍数

年齢月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0歳児	8	9	9	9	9	9	9	9	9	10	10	10	110
1歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	13	13	13	147
2歳児	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	163
3歳児	13	13	13	13	13	13	13	14	14	14	14	14	161
4歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
5歳児	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
合計	73	74	74	74	74	75	75	76	76	78	78	78	905

2、職員体制

園長	主任	栄養士	正規保育士	常勤的非常勤
1	1	1	9 (1名8月より産休)	2

派遣4h1名 9月より7h1名

パート7h	パート4h	補助4h	給食室7h	給食室4・5h	事務4h	朝3h	延長2h
1	1	1	1	1	1	1	2

3、開園時間

午前7時～午後19時 延長保育18時～19時

保育標準時間7時～午後18時。短時間8:30～16:30

4、事業計画重要課題

- 1、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため緊急事態宣言が発令され4月16日(木)～5月6日(水)まで その後5月30日(土)まで延期。という事態で登園自粛措置が取られこの間は、特別保育状態となりました。

人の動きを7割減らすという呼びかけに応え職員も、安全を最優先し最小限の人数での保育をという事で在宅ワークを実施してきました。新入园児は、早々に休園される状況となり実質6月からがスタートとなりました。

5、保育実践

- ・各クラスで年カリを立てそれに基づいて月案・週案を立てています。

クラス会議を定期的に行い計画、実践しています。

コロナ禍のため3密を避けることを配慮しつつ どうしたら子どもたちにとって最良の保育ができるかを考えていくことができ話し合いや意思統一も丁寧にできたのではないかと思います。

ます。

- ・第2波の時から、保育室への入室を制限するため乳児室のロッカーをテラスに置くようにしました。保育室が広くなり送迎時に大人の声が飛び交うことなく保育環境が快適に過ごせています。幼児クラスも同様です。
- ・給食室からの和え物出張やクッキングの指導は、コロナ禍の中回数は減りましたができる限り実施しました。
- ・コロナ禍の3密を避けるため乳児と幼児のクラスの交流の機会も限られ年長さんが銀河先生としてクラスに行くのも感染者が少ない時期のみしか行けませんでした。
- ・幼児クラスでは、縦割り保育や交流も多く取り組んできました。おたよりやブログにもクラスを超えた様子を記載してきました。ブログでの発信が多くなり在園の方だけでなく見学者の方にも事前に保育内容を周知していただけることができました。
- ・運動会は、予定日に丸橋公園で乳児クラスと幼児クラスに分けて観覧してもらう取り組みとしました。
- ・年長は海合宿を実行しましたが、杉の子・食満と交流はしないで各園で1台のバスとお部屋も1室使用という取り組み方をしました。
- ・雪遊びも各園別の取り組みとなりました。予定していた1月は、緊急事態宣言が出されていたので3月8日(月)に行き先を六甲スノーパークに切り替えました。1時間弱で行けるので9時に着いて13時には帰園というスケジュールでもたっぷり遊ぶことができました。(バスの中でおにぎりを食べ帰園してから食事はしました。)
- ・小学校との交流はできませんでした。
- ・ワークショップの取り組みは、5歳児5回・4歳児3回取り組みました。展示を玄関にしたことで多くの職員が展示の援助をする機会にもなりましたし乳児の保護者の方たちにも見てもらうことができました。
道具の使い方・材料の違いなどナビゲーターの先生に講義・実地をしてもらう機会を設けてもらい学びになりました。
- ・「卒園と成長を祝う会」は、クラスごとの観覧(参加1家庭2名)にして予定日に実施しました。
「ほかのクラスのを観覧できず残念ですが、コロナ禍で実施してもらえ子どもの普段の先生やお友だちと遊んでいる様子を見ることができ良かったです。」「いつもはひしめき合う中で観覧でしたがゆとりがあってゆっくり見ることができました」という感想をいただき今後の課題(観覧の)が見えました。
- ・グランドパママを招待出来なかったのが、年賀状を描きました。運動会は感染も少ない時期でしたので、別日に観覧日を工夫できたのではという反省。

6、子育て支援

- ・バザーは、中止して夏まつりも近隣小学校でコロナで休校になったため保育園と多目的ホールで、基本保育園関係者のみのお祭りとししました。11月にはミニ祭りをしました。

7、健康・保健

毎月：身体測定。

健診など		発症した感染症
4月		気管支炎
5月		溶連菌・下痢
6	眼科健診。耳鼻科健診。発達巡回相談。 小児科健診。	突発疹
7		溶連菌・突発疹
8		突発疹・とびひ
9		下痢
10	発達巡回相談。歯科健診	ヘルパンギーナ・溶連菌・結膜炎
11	小児科健診	下痢
12		
1		結膜炎・流行性結膜炎
2	発達巡回相談	嘔吐
3		溶連菌

8、衛生・管理

園庭周辺一ぐるっぺ（週2回）6月：ムカデ駆除。屋上と周辺腐葉処理。8月：ゴキブリ駆除

9、特別保育事業

・一時預かり（のべ人数）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0歳児								5					5人
1・2歳児	3			1	8	2	6	10	11	11	13	14	79人
3歳以上	3					4							7人
合計	6			1	8	6	6	15	11	11	13	14	91人

・延長保育

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実利用者	7	3	13	16	9	18	17	13	16	14	18	17人	161
のべ利用者	32	22	102	114	83	93	112	86	88	91	106	122人	1069

・障害児保育

・古川先生の発達巡回相談を年3回実施してもらい診断を受け対応の仕方を指導いただいています。・子どもの姿については職員会議で報告。共通認識を持ちました。ケース報告の機会も設けて学んできました。そして、実践内容をまとめ、法人内で報告し次年度の研修会に提案することとなりました。

10、地域子ども・子育て支援事業

・お出かけあそぼう会

実施できませんでした。

・あそぼう会

・あそぼう会は、4.5月の特別保育の期間は、休会していましたが後は、感染拡大予防をし月・木の週2回開所してきました。人数が多くなりがちの為どちらかの日1回の参加にしてもりました。

月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	161	227	227	247	293	205	193	153	284	266

11、実習生・ボランティアの受け入れ

・実習は、8月・11月園田学園から1名づつ。1月頌栄から1名受けました。

12、避難訓練・健康教育

防災・安全・健康委員会が計画的に年間計画に沿って実施しています。普通救命講習の技能の維持のための訓練は、3名は受けられましたがその後は、コロナ禍で中止となり受講できませんでした。

13、会議

職員会議は、前半は、平日の14時～15時までで実施。時間が短く2日間続けてするなどしました。会議資料は、前日提出がほぼ実施されるようになり、事前に資料を読んで会議参加することで、クラスの様子は、認知されやすくなってきています。リーダー会議は、職員会議では、論議できなかった内容や緊急の意思統一の際実施しました。クラス会議は、定例され進められてきています。午前勤務の職員との打ち合わせも大事にし12時から開催しています。

・3園専門委員会

法人内3園・1事業所の交流をする場として「防災安全・健康」「給食」「実践交流」「子育て支援」「プロジェクト」の委員会を設けて取り組みを進めてきました。

14、研修

- ・全国合研ZOOMで実施。多くの職員で全国の情勢を学ぶことができました。
- ・5園研修は、できませんでしたが法人内研修として
 - 「優生保護について」井上先生2回(兵障協) 藤井克徳氏(きょうされん)
 - 「ワークショップを通して」岡本先生(ひまわり)
 - 「描画製作の道具・材料についての講座」宮城・福元先生 (IPP0)「発達障害学習」古川先生(あおぞら生協)「防災学習」志築氏(県)「食品の安全と産直運動」田中氏(農民連)と昼間の学習会が実施させました。

参加人数は限られましたが、昼間の1時間30分という時間で濃い学びの場となりました。

- ・保育セミナー・・・兵庫の保育を考える集会は、中止。
- ・法人園会研修は、全体研修「保育の価値とリスク。深刻事故予防」掛札逸美氏をZOOMで実施
- ・キャリアアップ研修一窪がマネジメントを受講。
- ・その他「幼保小連携研修。」「虐待について」「ハサップ学習」は各々代表者を派遣。
「:新型コロナウイルス感染症について」ZOOM研修。

15、その他

- ・事務時間を工夫して取っていくように お互いの仕事量の可視化をするなどしました。
- ・心の元気をサポートしてもらう機会としてカウンセリングルームBig Smileのカウンセラーによるカウンセリングを月1回(1回3人)受けてきました。また、健康チェックを年2回行いました。

(文責 小阪美恵子)

2020 年度 けま太陽の子保育園事業報告

園児在籍数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	園児合計	一時保育
4月	6	12	14	13	11	13	69	0
5月	6	12	14	12	11	13	68	0
6月	6	13	14	13	11	13	70	2
7月	6	13	14	13	11	12	69	1
8月	6	13	14	12	11	12	68	2
9月	6	14	14	12	11	12	69	0
10月	6	14	14	12	11	12	67	2
11月	6	14	14	12	11	12	66	2
12月	6	14	14	12	11	12	66	3
1月	6	14	14	13	11	12	66	6
2月	6	14	14	13	11	12	66	8
3月	6	14	14	13	11	12	66	7
合計	72	161	168	150	132	147	810	33

【職員体制】

(正規職員) 施設長=1名 主任=1名 保育士=8名 栄養士=2名
 (常勤的非常勤職員) 保育士=3名
 (パート) 保育士 7h=1名. 4.5h =1名 5h=1名 4h=1名
 保育補助 早朝5h=1名 3h=1名 4h =1名 調理補助 4h=1名

【開園時間】

午前7～午後7時 (午後6時～7時 延長保育)

【保育実践】

・想像もしなかった新型コロナウイルスの影響は保育現場にも強いものがありました。緊急事態宣言 4～5月はほぼ子ども達が揃わず、保育士も在宅勤務を経験しました。テーマを決めての学習や普段なかなかできなかった玩具づくり等ができました。また、在宅の子ども達に向けて手作りおもちゃキットを配ったり、手遊びの映像を流すなどできる範囲での工夫をしました。

・6月からは子ども達も揃いだしいつもの集団に戻ってきましたが、感染予防のため保護者の保育室への出入りを制限せざるを得ず、戸惑いもありましたが保育環境としては大人の声が響かず子どもにとっては良いものがありました。

感染予防のためのマスクの着用、消毒や体温測定など保護者も協力してくれスムーズでした。

・何よりも行事の実施について1番頭を悩ませました。

保育参観は中止にしましたが、海合宿は他園との交流を避け、宿舎にも協力してもらいできるだけ密を避ける部屋の使い方をして実施、運動会は、保護者の入場制限をして乳児クラス、幼児クラスを分けて開催しました。

卒園と成長を祝う会は、昨年度は年長のみ保護者参加で他のクラスは録画しましたが、今年は1クラスずつ入れ替えで見てもらいました。いずれもプログラムをコンパクトにするため、何を大切にするか討議して決めました。本来の形ではないけれど、生で子ども達の姿を見てもらう機会は大切だなあと改めて感じました。

- ・昨年度から課題にしていた朝夕の保育については引き続き、事務所に置いた週案に記入し、職員間で共有できるようにし、保育技術の底上げを図りました。

- ・実践記録は、実践交流委員会が中心となり、昨年度の祝う会の取り組みのまとめや園内で場面記録を取って職員会議で交流する事をすすめ、少しずつですが苦手意識を克服しています。

- ・また、前年度よりも副主任の役割がイメージできるようになってきました。周りも本人も試行錯誤の部分はありますが、意識の変化は見られます。主任の仕事が明確になってきた影響とも思われます。

【子育て支援】

- ・年長クラスの個人懇談を運動会後に行っていましたが、もっと早い時期に入れた方が就学に向けての不安等をこちらが掴んで対応できるので来年度は見直そうと考えています。

クラス懇談会は、緊急事態宣言により時期がずれましたが、3密を避ける工夫をして例年通り3回実施できました。日常の中で保護者と話す機会が減っているのが貴重な時間になりました。

- ・あそぼう会はコロナの影響で年度当初は控えましたが6月より再開しました。人気のクッキングも持ち帰って食べてもらうようにするなど工夫して行いました。やはり保育園ならではの遊びが喜ばれ太陽の子に通っているお母さんがお友達を誘ってきてくれたり、「こじんまりしているから」とロコミでの参加もありました。ブログ等使ったの宣伝も力を入れました。

- ・「入園を希望しているので」とあそぼう会や一時保育の利用もありましたが、結局希望している人が入園できない場合が多く、矛盾を感じました。

【特別保育事業】

- *一時預かり保育 のべ33名の利用 リフレッシュが主な利用でしたが仕事での利用も時々入りました。

- *延長保育

利用人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳児	0	0	2	7	6	10	12	8	12	11	5	11
1・2歳児	1	0	0	3	4	4	12	10	10	12	10	8
3歳児以上	5	0	1	4	4	3	3	2	10	5	11	8
合計	6	0	3	14	14	17	27	20	32	28	26	27

【障害児保育】

年 3 回の巡回発達相談に古川先生に来て頂き、発達面で気になる子どもの様子を見てもらい、必要なら関係機関に繋げていきました。また、小児科健診で相談し保護者への理解を進めることが出来ました。

担当保育士任せにせずケース会議を持ち、課題を明らかにしてクラスを超えての支援をしました。

【職員研修】

*今年度はコロナの影響で保育セミナーや「兵庫の保育を考える集会」は開催されませんでした。法人内の各委員会主催で学習会を開催できました。委員会が中心となったので参加人数は少ないけれど、興味のあることを学べて意義のあるものになりました。

全国合研はリモートでの開催でした。保育体制が可能な範囲で参加できました。

委員会 研修内容	優生思想について	防災について	巡回発達相談と保育	農薬について
-------------	----------	--------	-----------	--------

法人園会研修 「リスクマネジメントについて～コロナ禍と保育」 掛札先生

研修の内容は、報告書の閲覧と、その時々に応じて職員会議で報告し、共有しています。

【会議】

*職員会議

緊急事態宣言の期間は定例の職員会議は開催できませんでしたが、それ以後は 3 密を避ける工夫をして開きました。

出来るだけ効率よく進める為、事前に各会議の準備をすることを意識し、身についてきました。会議録も書記係のみ記入し、他の人は討議に集中できるようにしました。

テーマについては副主任とも相談し、その時々課題を盛り込むようにし、話し合いの形式もテーマによって意見を出しやすいよう変えました。

【実習生受け入れ】

1 月～ 園田学園より 1 名

【避難訓練】

月	内容	月	内容
4	火災・給食室より出火	10	地震・津波 園田小学校へ避難
5	地震	11	火災 避難 不審者対応
6	火災 通報訓練 給食室より出火	12	火災 西側マンションより出火
7	洪水	1	地震・津波
8	火災 北側のマンションより出火	2	火災 幼児棟より出火
9	洪水 台風	3	地震

【健康・安全】

	健診等	発症
4		突発性発疹
5	巡回発達相談	突発性発疹
6	眼科健診 小児科健診 歯科健診	突発性発疹
7	耳鼻科健診	
8		
9	巡回発達相談	
10	小児科健診	
11		下痢 嘔吐 水痘
12		
1	巡回発達相談	
2		
3		

*子ども同士のトラブルから、額に縫合が必要なけがをしました。おもちゃも含めて環境の点検を行い、保育士の動きの確認等見直しました。インシデントアクシデントのまとめを安全委員が中心になってまとめ、集団で振り返りをしてきました。

2020年度 さんぽ支援センター 事業報告

コロナで大きく影響の出た一年…これからも策を練ることが大事

2020年度はコロナ禍問題が全体を覆い、特に移動支援事業が大きな影響を受けました。約3割の支援減です。

ヘルパーは新しい人が登録に至り事務体制も補強しましたが、各事業は横ばい状態でした。

先は長いですが、コロナ対策を尽くしながら、引き続き緊張感をもってあたっていきたいと思います。

1 実施事業について

***移動支援は** 利用者が22名となり、昨年から3名利用が減りました。実績は自粛とも相まって2・3割の減という月が続いています。人の多い所などは避けなければならないことから時間数が少なくなるという事態も多々あります。

近所の方がさんぽ支援センターの事を知って申し込んでくるなど、地域にも徐々に浸透していることがうかがえました。誠実で人権を尊重した支援を心がけ、信頼される事業所を目指してますます努力したいと思います

***居宅支援は** 今年度も新規の利用者が増え、順調に伸びています。男性利用者に男性ヘルパーが確保できました。

精神障害の利用者の居宅支援?・家事支援が増えています。

居宅支援の利用者が移動支援を希望することも出て来ました。

***日中一時支援は** 問い合わせも多く、新規登録もあります。コロナでお出かけが制限される中、日中一時支援の利用でつなぐということも増えてきた一因です。

***短期入所は** 2020年度は利用曜日を増やし月20回となりました。定員は4人です。緊急依頼にも対応したり、他事業所からの紹介にも応えています。緊急の場合、母親が高齢や入院のためというケースです。短期入所の大事な要素である緊急一時保護という機能を果たしていかななくてはならないと思います。短期入所ネットワーク(尼崎市)のつながりも大きな要因です。

2 人材育成と研修

コロナ対策での様々な書類処理の指示、さんぼとしてマニュアルなどの見直しをすることができました。個別支援での教訓や報告・相談は、全体で検討し、個々に飲む支援者に返すように努力してきました。

きょうされんの研修・全障研に参加してきました。

3 保護者対応

*半年に1回の個別面談はしましたが、コロナの元、書類のやり取りのみにせざるを得ませんでした。途中からの契約者についても、最初に細かく面談をしました。

コロナの緊急事態宣言などの対応は、その都度お便りやメールで発行してきました。

4 運営の改善

さんぼ支援センター会議を月2回定例で実施してきました。全体を見わたしての運営のポイントを出し合い支援の充実と開拓が図るよう努力してきました。

また、ブログの活用をもっと進めていかなくはなりません。ブログをとおしての一般への訴え、アプローチはいろんなニーズの掘り起こしにつながると思います。

月に定期的に2回以上のブログ作成をしていきます。

また、さんぼの情報だけでなく、虹の会やいっぽ、保育園の障害児保育の取り組みなども併せてあげていくようにします。

5 他事業所とのかかわり・運動のかかわり

利用者はいろんな事業所にかかわっています。ケアマネージャーがたてる利用計画相談にもとずいて不十分な部分を検討して充実したものになるよう配慮しています。

運動とのかかわりは きょうされん・兵障協・全障研があります。今年は書類でのやり取りが多かったのですが、きょうされん署名は600筆かんぱ3万を全員でこだわって集めることができました。

2020年の活動

毎月	コーディネート会議 さんぽ職員会議 避難訓練 支援センターだより発行 利用者だより発行	
月	全体	利用者・保護者
4月	研修 兵庫の保育を考える集会	毎月 キッチン9あり 個別懇談 個別支援計画(前半) の説明
5月	短期入所担当支援員会議 きょうされん阪神ブロック会議 ゴキブリ駆除	個別懇談
6月		
7月	消防設備点検	
8月	尼崎市短期入所ネット会議	皿回しであそぼう さんぽフェスタ
9月		
10月	ヘルパー会議	個別懇談後半
11月	SS ネット会議	個別懇談 ウォークラリー コイン落としコーナーで参加
12月	きょうされん阪神ブロックネット会議	みんなでクッキング (パスタランチ)
1月	きょうされん署名	
2月		
3月	きょうされん署名集約	さんぽフェスタ 予約販売にて実施